

骨粗鬆症⑤ 男性の骨粗鬆症

骨粗鬆症は女性に多い病気で、特に閉経後はその傾向が強くなります。しかし、男性の骨粗鬆症も高齢化社会を反映し増加しています。2000年の推計ではその患者数は約230万人（女性は約780万人）と考えられています。

女性の場合は閉経を期にした急激な骨量の減少が認められますが、男性の場合は40から60歳以降徐々に骨量が減少します（1年で約1%の割合で減少します）。このため70歳代後半では男性の18%、80歳以上では約20%が骨粗鬆症であるといわれています。

男性の骨粗鬆症ではその1/2～2/3が明らかな原因がある骨粗鬆症であるといわれており、その原因として過剰な飲酒、喫煙、薬によるもの、内科的な疾患（腎不全、胃・肝臓疾患、呼吸器の疾患、糖尿病などの内分泌疾患など）があげられています。これらに該当する方は注意が必要です。

男性の骨粗鬆症による骨折は、女性に比べればその頻度は少ないのですが骨折が生じた場合はその予後が悪いと報告されています。平成15年の報告では股関節の骨折による死亡率は女性では7～8%であるのに対し、男性では12～14%と約2倍になっています。

診断は女性と同じで骨量の測定を行い、若い人の平均値の約70%以下であれば骨粗鬆症と診断されます。女性の方は検診などで骨量の低下を指摘され、無症状のうちに治療を開始される方が増えていますが、男性の場合は骨粗鬆症の検診もなく骨折が生じてはじめて骨粗鬆症と診断される場合が多いのが現状です。

治療としては女性の骨粗鬆症同様まずは食事、運動、転倒予防などの一般的な生活上の注意が必要です。また薬物治療が必要となり、女性の骨粗鬆症で使用している薬（ビスフォスフォネート製剤、活性型ビタミンD3）が有効といわれています。

骨密度の測定を希望される方や、骨粗鬆症に関して質問のある方は整形外科医師に気軽にご相談ください。

（文責 古川）